

# 1 鹿児島県庁

日時 平成20年8月7日(木) 13時～16時  
場所 鹿児島県庁(鹿児島市鴨池新町10-1)  
出席者 懇話会委員 18人

## (1) 概要説明

平成8年9月に、鹿児島市山下町から同市鴨池新町へ新築移転  
(旧県庁舎から移転先までは、直線距離で約4.5km)

完成時期 平成8年9月

敷地面積 91,367㎡

### 県庁舎の概要

区分	延べ床面積	構造
行政庁舎	78,622㎡	S(一部SRC)造、地下1階・地上18階
議会庁舎	12,686㎡	SRC造、一部地下1階・地上7階
警察庁舎	24,047㎡	SRC造、地下1階・地上9階
計	115,355㎡	

S造：鉄骨造、SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート造

### 事業費

区分	事業費	摘要
建設事業費	606億円	
付帯事業費	40億円	LAN構築費、備品費、移転費等
計	646億円	うち県庁舎建設基金 305億円

### 特記事項

#### (ア) 検討の経緯

・旧県庁舎は、大正14年に建設され、建物の狭隘化・老朽化、駐車場不足により、県庁舎の移転が検討される。

昭和61年 5月 「県庁舎整備調査委員会」設置  
(委員長：副知事、関係部長等で構成)

63年 3月 「県庁舎建設基金条例」制定  
6月 「県庁舎整備検討協議会」設置  
(県議会議員、学識経験者等23人で構成)

平成 元年 2月 同協議会会長から知事に対し「鹿児島県庁舎の全面的整備に関する提言」を提出

3月 県議会「県庁舎整備問題特別委員会」設置

平成 2年 3月 平成2年第1回定例県議会定例会において、県庁舎の移  
 転先は鴨池新町が敵地である等の県庁舎整備問題特別委  
 員会委員長の報告を無記名投票により承認  
 8月 県庁舎建設基本構想を発表  
 平成 5年 9月 工事着工  
 平成 8年 9月 工事完成

(イ) 移転先の地盤の状況及び対策

- ・平成2年度に地盤基本調査を実施

現庁舎敷地の地盤は、カルデラの一部で、深さ120m付近までシラス、転石、砂が堆積。地下水位は、-2.8~-3mでN値が低く、液状化の可能性は高い

- ・調査結果を踏まえ、地盤改良を実施

地盤改良は、バイプロフローテーション工法で実施し、深さ13m、1.7mピッチで6,700ヶ所施工。その結果、N値が9から13に向上

(ウ) 跡地活用の状況

平成7年7月 学識経験者や県議会・行政経験者28人で構成された「県庁舎跡地利用協議会」を設置し検討

平成8年9月 「跡地利用施設は、県民の多くが参加できる生涯学習施設、国際交流施設、男女共同参画社会の実現に関する普及啓発施設、介護に関する普及啓発施設からなる複合的な県民交流センターとする。」提言をとりまとめる。

平成9年3月 「県庁舎跡地には県民交流センター（仮称）として整備する。」という方向で、「県庁舎跡地利用基本構想」をまとめる。

平成9年度 「県庁舎跡地利用基本計画」をとりまとめる。

「かごしま県民交流センター」の概要

- ・建設規模 SRC造 地上6階、地下2階  
 延べ床面積 44,727㎡  
 駐車場 550台（普通車530台、バス20台）
- ・工事期間 平成12～14年度
- ・事業費 225億円
- ・開館日 平成15年4月22日

旧庁舎の解体等経費

- ・行政庁舎・議会庁舎  
 解体費 10億6,600万円  
 一部保存に伴う改修費（引家経費を含む） 10億3,600万円
- ・警察庁舎  
 解体費 2億200万円

## (2) 庁舎視察

行政庁舎

展望ホール、災害対策本部室、執務室、講堂、県民ホール、県民情報センター  
県政情報センター、中央管理室、食堂、屋外駐車場 など

議会庁舎

議場、議長室、全員協議会室、常任委員会室

警察庁舎

交通管制センター、通信指令室、科学捜査研究所

## (3) 質疑応答

委員 維持運営費（水光熱費、清掃関係等）はどのくらいかかっているのか。

鹿児島 平成19年度の実績で、清掃委託費等の庁舎管理に約7,700万円、水光熱費など設備関係に約4億2,000万円、合計で約4億9,700万円を要している。

委員 新庁舎に対する県民の評価はどうか。

鹿児島 新庁舎が完成した当時は、不適正な事務処理問題が批判を受けていたという状況もあり、高額のコストをかけて建てたことに対する批判的な意見もあった。しかし、現在では、子供から高齢者まで非常に多くの県民が見学に訪れており、旧県庁舎より県民に使われている。

委員 これから新しい庁舎をつくる際に配慮した方がよいと思うことはあるか。

鹿児島 現在、職員は庁舎内禁煙にしているが、設計時には想定していなかったため、対応に苦労した。

会議室は十分に確保しておいた方がよい。庁外会議室の借上げに経費をかけるより、自前の会議室を持っておいた方がよい。

インテリジェントビルにしているが、管理機器は10年程度で交換する必要があるため、互換性や拡張性に配慮した方がよい。

冷房については、パソコン等からの熱負荷の将来の動向を考慮した方がよい。

委員 県庁舎が市街地から現在地に移転したことにより、旧県庁舎周辺の商店街への影響はどうだったか。また、それをどのように改善されたか。

鹿児島 3,000人の職員が移転したが、旧県庁舎周辺には市役所をはじめ税務署等の国の機関、新聞社等があり、明らかに寂れたということは聞いていない。

跡地に建設した「県民交流センター」には駐車場も十分あり、多くの県民に利用されている。

委員 費用対効果については、新幹線等でよく話題になるが、県庁舎建設での費用対効果について教えてほしい。

鹿児島 新庁舎建設にかかる費用対効果は、特に算定はしていない。

新庁舎建設は、旧庁舎が老朽化し、敷地が狭く現地での建替えができなかったために、現在地へ移転したものである。

狭いところで我慢してきたので、設備等が整った庁舎を建てるという考え方でつくった。新庁舎を建設したことにより、業務の効率は上がっている。

委員 現庁舎及び旧庁舎の地盤の状況を教えてほしい。

鹿児島 現庁舎敷地の地盤は、カルデラの一部で、深さ120m付近までシラス、転石、砂が堆積している。地下水位は-2.8～-3mでN値が低く、液状化の可能性は高いとされていたため、地盤改良を行った。

地盤改良は、バイプロフローテーション工法で実施し、深さ1.3m、1.7mピッチで6,700ヶ所施工した。その結果、N値が9から13に向上した。

また、旧庁舎敷地の地盤は良かった。

# 視察状況写真

## 鹿児島県庁



エントランスホール（行政棟）



県政情報コーナー（行政棟）



県民情報センター（行政棟）



災害対策本部室（行政棟）



執務室（行政棟）



展望ホール（行政棟）





駐車場棟



駐車場屋上緑化



エントランスホール（議会棟）



議場



委員会室（議会棟）



通信指令室（警察本部）